

人として

「音を頼りに、音便り」 10年声を届けて

ラジオパーソナリティー
吉田重子 さん



ラジオパーソナリティーといえば、明るい声で日常のことを魅力的に語り掛けるというイメージがあるかもしれない。まして、私がかかわっているコミュニティFMとともに、地域のすてきなお店の情報紹介などを想像する方も少なくないだろう。申し訳ないが、私が担当させていただいている番組は、その対極にあるといつても過言ではない。というのも、土曜日は、「リレーエッセイ」として、月に一度、1時間ずつ、さまざまな分野の市民が番組を担当している。私の「音を頼りに、音便り」もその一つである。「自由に話してください。地域性などは気にしなくてよいです」と持ち込まれた話を言葉通りに受けとめて、私は、番組を進めてきた。

1時間番組といっても音楽やCMを入れると語りは実質30分から長くて40分くらいか。そして、生番組の一発勝負である。核となるコーナーを二つ設けてみた。

「水に流さず右往左往」と名付けたコーナーは、その名の通り、日々流されていくニュースの中からこだわりたい事項を取り上げる。また、歩行時の安全性や手引き声かけのありがたさ、点字の大切さ、日常生活上の不便さ等々視覚障害者の立場として思うことも話題にする。もう一つのコーナーは、私の夢の一つ、本の紹介である。私は、これまでい

ろいろなラジオ番組から本の情報を得てきた。現在「サピエ」という全国ネットの電子図書館の誕生で、点訳や音訳の本を読む環境は以前に比べれば、かなり改善された。私が本を紹介することも可能になったと思った。しかし、この憧れのコーナーは、今や私を苦しめてもいる。毎月1冊の本をみなさんのが「読んでみたい」と思ってくださるように紹介するというのは、なかなかむずかしい。ポイントは押さえる、しかしあまりネタバレになってはいけない、いろいろな読み方ができるように、私見を押し付けてもいけない…。

今年1月北海道新聞で、ラジオでの活動を紹介いただいた。番組を聴いてくださる方が増えた。リクエストや感想のメール、中には道外からのメールもある。今やスマホのアプリでコミュニティの垣根がないようだ。毎月の番組の感想を詳細に送ってくださる方も現れた。ありがたいし、とても支えになっている。かつてお世話になった方から連絡をいただいたりもして、思わぬ喜びである。まだまだ工夫の余地あり。それでも、来月も、話したいことをとつとつと話しているだろう。

よしだ しげこ／先天性の眼疾患により全盲。札幌視覚支援学校などで約40年教職を務める。点字の歴史や視覚障害者の生活などを綴ったエッセー集『点字からはじまるメッセージ』(2009)をきっかけに、2013年から札幌市の地域FM三角山放送局にて毎月パーソナリティーを務める。